

胎内市国民健康保険
第2期保健事業実施計画
(データヘルス計画)

個別保健事業評価

令和3年度 評価分



令和4年3月

胎内市 市民生活課

健康づくり課

目次

1	令和2年度個別保健事業評価（評価未実施分）	
(1)	特定健康診査	1
(2)	特定保健指導	1
(3)	生活習慣病予防のための重症化予防事業	1
(4)	歯科健診受診率	2
(5)	運動教室への支援	2
(6)	生活習慣病予防の知識普及啓発事業	2
2	令和3年度個別保健事業評価	
(1)	特定健康診査	3
(2)	特定健診未受診者対策	4
(3)	特定健康診査結果説明会事業	5
(4)	特定保健指導	6
(5)	早期介入事業	7
(6)	生活習慣病予防のための重症化予防事業	
i	受診勧奨事業	8
ii	保健指導事業	9
(7)	歯科健診受診率	10
(8)	運動教室への支援	11
(9)	生活習慣病予防の知識普及啓発事業	12
3	講評	
	個別保健事業評価に対する講評	13

1 令和2年度個別保健事業評価（評価未実施分）

①特定健康診査

	評価項目・評価指標	目標値	達成状況
アウトカム指標	特定健診受診率	54% (特定健診受診者数/対象者数)	42.8% (2,079人/4,853人)
評価・考察等	令和元年度の実績から2.9%減少する結果となったが、新型コロナウイルス感染症の影響であると推測している。県内すべての市町村が受診率を落としており、新潟県の平均は37.4%（令和元年度から7.6%減少）であった。集団健診の受診率は前年度と比較して横ばいであったが、人間ドックの受診率は被保険者の受診控えや、健診(医療)機関が受診者数に制限をかけたこともあり、2.2%ほど受診率を落とす結果となった。減少幅は新潟県内の市町村と比べて低い結果となったが、受診控えをした被保険者に対するアプローチ（コロナ対策ができていない点など）を行い、受診率の向上に繋げる。		

④特定保健指導

	評価項目・評価指標	目標値	達成状況
アウトカム指標	①特定保健指導実施率 ②特定保健指導対象者出現率	①54.0% (指導実施者数/特保対象者数) ②11.0%以下 (特保対象者数/特定健診受診者数)	①61.3% (136人/218人) ②14.1% (294人/2,079人)
アウトプット指標	①[集団健診受診者] 初回面接実施率 ②[人間ドック健診委託機関] 初回面接実施人数(動機づけ支援) ③[人間ドック受診者] 初回面接実施人数	①85% ②10人以上 ③10人以上	①93.6% ②3人 ③1人
評価・考察等	<p>(集団健診受診者で特保対象者) 健診時に初回面接を実施することで、初回面接実施率は90%を超える値となった。結果説明会等も有効に使い、継続支援に繋げることができた。対象者名簿を整理したことで、対象者が他事業に参加する際の連携や、地区担当保健師が関わりやすい体制を作ることができた。</p> <p>(人間ドック受診者で特保対象者) 特定保健指導実施率は目標値である60%以上に到達したが、人間ドック受診者に対する実施率は5%未満であった。60%以上の実施率を維持するためには、人間ドック受診者に対する指導実施率が重要になる。健診(医療)機関での初回指導実施や、対象者の意識を上げる取組について考えていく必要がある。</p>		

⑥生活習慣病予防のための重症化予防事業

	評価項目・評価指標	目標値	達成状況
アウトカム指標	①受診勧奨判定者の医療機関受診率 (a)血圧 (b)血糖 (c)HbA1c (d)CKD ②重症化予防実施者の医療機関受診率 ③重症化予防実施者の生活習慣改善率 ④重症化予防実施者の次年度健診改善率 ⑤重症化予防指導対象者の割合	①(a)51.0% (b)58.0% (c)87.0% (d)71.0% ②80%維持 ③75%維持 ④75%維持 ⑤3.0%以下	①(a)54.9% (b)59.0% (c)94.7% (d)78.2% ②69.2% ③83.8% ④59.4% ⑤3.4%以下
評価・考察等	医療機関受診率は目標値以上の結果となった。健診結果説明会時に健診結果や医療機関受診の必要性を説明したことで、対象者の意識が変わり、今回の結果に繋がったと考えている。一方、対象者の中には「毎年同じ結果だから問題ない」、「自覚症状は無く問題ない」という理由で受診しない者が数名いる。継続して受診勧奨をしていくと同時に、対象者に沿った指導方法を考えていく必要がある。健診結果が悪くなった受診者に保健指導をしたところ、「コロナの影響で運動頻度が減り、体重が増加した」、「家で時間が増え、食べる機会が増えた」という声が多かった。保健指導では健診結果を伝えるだけでなく、生活習慣に関する指導をしっかり行う必要がある。		

⑦歯科健診受診率

	評価項目・評価指標	目標値	達成状況
アウトカム指標	歯科健診受診率	15% (受診者数/対象者数)	17.0% (387人/2257人) [以下内訳] 40歳 (45人/309人) 50歳 (64人/400人) 60歳 (75人/384人) 70歳 (87人/541人) 76歳 (61人/313人) 80歳 (55人/310人)
評価・考察等	受診率は年々向上しており、令和2年度においても目標値を上回った。特定健診の場などで歯科健診のチラシを配布したことで、受診者の増加につながった。年代別で見ると、40歳・50歳の受診率が低い。今後も受診票を再通知するなど、様々な方法で受診勧奨を実施していく。		

⑧運動教室への支援（令和3年度からは『運動習慣定着促進事業』に名称変更）

	評価項目・評価指標	目標値	達成状況
アウトカム指標	特定健診質問票における「運動に取り組んでいる市民」の割合 (質問票No.10)	41.5%	43.6%
評価・考察等	事業は例年どおりに実施した。健診結果説明会など実施事業以外の場でも運動の必要性を繰り返し伝えている。自身の運動習慣について考える機会や、天候等に左右されず運動を実践できる場など、運動を行うための体制づくりが必要である。		

⑨生活習慣病予防の知識普及啓発事業

	評価項目・評価指標	目標値	達成状況
アウトカム指標	喫煙者の割合 (特定健診質問票より)	12.0%	12.2%
評価・考察等	禁煙に関する情報提供を市民向けに行っているが、「禁煙したい」と希望する人はいなかった。今後もポピュレーションアプローチだけでなく、実際の喫煙者に対するハイリスクアプローチを行い、たばこの害や禁煙に対する意識を持っていただけるような指導を実施していく。		

2 令和3年度個別保健事業評価

事業番号	事業名		
①	特定健康診査事業		
事業説明			
事業目的(目標)	特定保健指導対象者や重症化予防指導事業対象者を把握するためには、特定健診を受診していただく必要がある。必要な方に必要な保健事業をご案内できるように、国民健康保険被保険者の健康状態を把握する。		
対象者	40～74歳の国民健康保険加入者	実施期間	[集団健診] → 令和3年5月～11月 [施設健診] → 令和3年8月～令和4年1月 [人間ドック] → 令和3年4月～令和4年3月 [みなし健診] → 令和3年11月～令和4年3月 [健診結果の収集] → 随時
事業概要	[集団健診] → 市内5か所で集団健診を実施する。実施に関して適切な周知を行う。 [施設健診] → 施設健診に協力していただける医療機関と事前に打ち合わせを行い、施設健診を実施する。実施に関して適切な周知を行う。 [人間ドック] → 人間ドック助成費用の予算を確保する。自家用車がない方向けに、集団募集を開催する。助成額、申込方法等について適切な周知を行う。 [みなし健診、健診結果の収集] → 下記「今年度の取組状況」を参照		
過去の経緯 <small>(評価指標の推移や課題等)</small>	<p>◀評価指標の推移▶ 令和5年度までの目標値60%に対して、45%前後で推移しており、目標到達が難しい状況である。 また、コロナウイルス感染症の影響もあり、既存の事業のみで受診率を上げることは難しい状況が続くと予想する。</p> <p>◀課題▶ 市の健診事業を利用せずに、他の健診事業に参加している者の把握と健診結果の取得</p>		
今年度の取組状況	<p>新たな取組を以下の内容で実施した。</p> <p>① みなし健診事業 ①対象者 特定健診未受診者かつかかりつけ医での診療内容が概ね特定健診の項目を満たしている者 ②事業内容 特定健診として不足している検査項目をかかりつけ医で受診していただき、特定健診の受診者とみなす（本人負担額は0円） →健診結果は医療機関から市役所に提供される。</p> <p>② 健診結果の収集（令和3年度は胎内市農協が主催するJAミニドックの会場に行き） ①対象者 市の健診事業ではなく、他団体が実施している健診に参加している者 ②事業内容 令和3年度の活動内容としては、胎内市農協が主催するJAミニドックの会場に行き、参加者から同意を得ることで、健診結果を収集した。</p> <p>なお、既存の事業（集団健診、施設健診、人間ドック）はこれまで同様に実施した。</p>		

事業評価（評価指標の推移と評価）				
	評価項目・評価指標	目標値	達成状況	評価と考察
アウトカム指標	①特定健診受診率 i 集団健診受診率 ii 人間ドック受診率 iii その他の受診率 ※その他 ・施設健診 ・みなし健診 ・健診データの収集	①56.0% [内訳] i 33.0% ii 20.0% iii 3.0%	令和4年度に集計 [参考(受診者数)] 集団健診受診者…1,441人 人間ドック受診者…820人 (2月末時点) 施設健診受診者…13人 みなし健診受診者…22人 (12月末時点) 健診データの収集…49人	受診率に関する評価は次年度に実施する。
アウトプット指標	①集団健診の実施回数 ②施設健診の実施期間 ③人間ドックの助成実施期間 ④みなし健診受診勧奨率 ⑤健診データ提供に関する同意の取得率	①必要回数を実施 1回あたりの参加者数が 40人～60人になるように実施 ②8月～1月に実施 ③4月～3月に実施 ④100% ⑤80%以上 (同意者数/対象者数)	①28回実施（平均48.8人/回） ②目標のとおり実施 ③目標のとおり実施 ④100% (送付者240人/対象者240人) ⑤98.0% (同意者49人/受診者50人)	①②③目標とおり(例年とおり)に実施することができている。 ④対象者全員に文書を送付することができた。また、実施期間を長くするために、国保連合会と連絡を取り合い、できる限り早い発送ができるように準備をした。発送後、医療機関から「血液検査は毎回行っていないので、直近3ヶ月のデータがない」という問い合わせがあった。特定健診の項目には直近3ヶ月以内の結果を記載しなければならぬため、対象者抽出の際には注意が必要である。 ⑤想像以上に集めることができた。市役所の職員が直接会場に出向いて、同意書の提出依頼をしたことが効果的であったと考えている。
事業課題	未受診者対策事業のアンケート結果で職場の健診を受けていると回答している者がいた。JAミニドック以外で収集できるデータがあれば、随時アプローチしていく必要がある。 → (未受診者対策事業、健診調査票事業と連携して考えていく)			

事業番号	事業名
②	特定健康診査未受診者対策事業

事業説明			
事業目的(目標)	特定健診未受診者が、自己の身体や生活習慣を見直す手段として特定健康診査を受診する。 また、受診率を向上させるために、未受診者の未受診理由を把握する。		
対象者	40～74歳の国保被保険者であり、健診調査票(毎年12月頃に実施する次年度の健(検)診受診に関する意向調査)で集団健診を受診希望としながら、抽出日時時点で未受診の者	実施期間	8～1月
事業概要	未受診者に対し年齢別の方法でアプローチを行い、未受診者用に開催する集団健診か施設健診の参加を促す。		
過去の経緯 (評価指標の推移や課題等)	<p>《経緯》 多忙かつ高齢化の進む被保険者に対し、別日で集団健診を実施することや、施設健診のご案内をすること、受診の受け忘れについて確認することで、年に一度は特定健診を受けていただけるように実施している事業である。事業計画当初は訪問によるアプローチ(受診勧奨)を60歳までとしていたが、令和元年度から64歳まで引きあげた。</p> <p>《評価指標の推移》 目標値の30%に対して、20%前後で推移しており、目標未達の状態である。</p> <p>《課題》 ①毎年度、同じ人が対象になっており、中々改善が見られない。 ②最初から未受診者対策用の集団健診に参加することを希望している者がいるため、訪問等の事務負担を減らすため、その者に対する対応方法を考える。 ③これまでの未受診者対策事業対象者は、調査票において集団健診を受診希望としていたが、集団健診や人間ドックを受診していない者を対象としており、受診希望について不明な者(健康調査票未提出の者)に対するアプローチが課題として残っている。令和2年度は、この者に対し未受診理由アンケートを実施した。アンケート結果や回答状況を整理し、今後のアプローチ方法を検討していく必要がある。</p>		
今年度の取組状況	<p>●特定健診受診勧奨 対象者に対して、年代別に以下の方法でアプローチを行い、受診を希望者には未受診者用に開催する集団健診か施設健診の案内を出した。</p> <p>①40歳～64歳 対象者に対し訪問受診勧奨を実施する。訪問時に不在で、対面によるアプローチができない場合は電話や不在置きによるアプローチを実施した。 ※訪問、電話ができない場合は文書送付によるアプローチを実施した。</p> <p>②65歳～74歳 文書による個別通知でアプローチした。</p> <p>●未受診者アンケート調査 訪問、電話時には話の流れで調査を実施する。対象者には、アンケート用紙と返信用封筒を同封する。</p> <p>◎前年度からの変更点 事業実施時期を9月に早め、10月に実施する黒川地区の健診と11月に実施する未受診者向けの健診の2回に受診機会を増やした。</p>		

事業評価(評価指標の推移と評価)				
	評価項目・評価指標	目標値	達成状況	評価と考察
アウトカム指標	①事業実施者の特定健診受診率 i 40-64歳 ii 65-74歳 ②未受診者の理由把握率 アンケートはがきによる把握	① i、iiともに30%以上 ②50%	① i 40-64歳 16.9% ii 65-74歳 16.9% ②35.9%	①健診受診率は対象者を拡大(調査票の未提出、未記入者)したことによることも関係し、昨年度に比べ4.2%低くなっている。訪問など直接受診勧奨をした方が実績としては成果がでており、実態把握も併せてできるため、今後も直接受診勧奨を実施する機会として事業を継続していきたい。 また、医療機関を受診していることを理由に未受診である者に対しては、「みなし健診」「施設健診」に移行することができるように周知していく。 ②令和3年度からアンケートはがきの対象者を40～74歳までに拡大した。訪問時には、アンケートはがきの提出を求める声掛けをしているが、回収率の増加には繋がらなかった。次年度も継続して声掛けを実施するが、回収依頼文書の内容を見直す必要があると考える。
アウトプット指標	①未受診者に対する受診勧奨率(補足) i 訪問・電話実施者数 ii 通知対象者数 ②アンケートはがきの配布率	①100% ②100%	①99.9% ②99.9%	①居住実態のない対象者がいたため、100%の受診勧奨にすることができなかった。対象者選定時に、前年度の訪問状況や健診希望調査票の提出状況等を考慮する必要がある。 ②上記と同様の理由で100%に到達することができなかった。
事業課題	・未受診理由調査アンケートの提出依頼文書を見直す。 ・効率的な事業を実施するために、過去の訪問状況や調査票の提出状況などを整理する。 → 対象者選定時に活かす			

事業番号	事業名
③	特定健康診査結果説明会事業

事業説明			
事業目的(目標)	自身で生活習慣の改善プランを立て、実践することができる人を増やすために特定健診結果説明会を通して保健指導を実施する。		
対象者	40～74歳の国民健康保険加入者で集団特定健診の受診者	実施期間	6～12月
事業概要	<p>[集団支援] (集団説明) 特定健診結果説明会の会場で、栄養講座・運動講座の説明を集団で実施(※令和2年度～コロナウイルス感染症の影響により休止中) (個別指導) 結果の確認方法や生活習慣の振り返りや生活指導、受診勧奨等を実施</p> <p>[個別支援] (個別指導) 結果の確認方法や生活習慣の振り返りや生活指導、受診勧奨等を実施</p>		
過去の経緯 (評価指標の推移や課題等)	<p>◀経緯▶ 必要な人に必要な保健事業を実施するため、特定健康診査結果説明会事業を実施している。特定保険指導や医療機関受診勧奨、重症化予防指導の対象者には、この機会を通じて保険指導を実施する。コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は集団説明を行っていない。令和3年度も実施予定なし。</p> <p>◀評価指標の推移▶ コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度は集団健診結果説明会の参加率が目標に到達していないが、それ以外は達成できている。</p> <p>◀課題▶ ・コロナウイルス感染症の影響により、集団説明が実施できない状況が続いているため、保健師の指導の質を向上させ、充実した個別指導を行う必要がある。 ・集団支援は午前中の早い時間帯に参加が集中するため、待ち時間が発生してしまう。待ち時間を利用した指導の機会を検討していきたい。</p>		
今年度の取組状況	<p>①出席者の確認を実施した。 ①集団健診実施時に予約をとり参加確認 i 集団支援日 ii 個別指導日 iii 電話等で説明し郵送 ②欠席希望者に再勧奨の実施</p> <p>②健診結果に関する保健指導の実施した。 ①特定健診結果説明会の参加者 予め時間を指定して、参加者に個別保健指導(健診結果や生活習慣の確認)を実施した。 ※特定保健指導対象者や受診勧奨対象者、重症化予防指導対象者には、この機会を利用して指導(勧奨)を実施した。 i 集団支援(令和3年度も集団説明を実施しない) 集団説明・・・参加者に生活習慣病予防をテーマとした栄養講座や運動講座を実施 個別指導・・・結果の確認方法や生活習慣の振り返りや生活指導、受診勧奨等を実施 ii 個別支援・・・結果の確認方法や生活習慣の振り返りや生活指導、受診勧奨等を実施</p> <p>②特定健診結果説明会の欠席者 電話により集団支援や個別支援への参加を呼びかけ、できる限り対面での指導を実施できるようにした。 どうしても参加できない場合は、電話での指導を行った。→電話対応ができない場合は、個別メッセージを付けた健診結果を郵送した。</p> <p>③結果説明会に参加した者で、継続支援が必要な者に対しては、地区担当に情報提供を行った。</p>		

事業評価(評価指標の推移と評価)				
	評価項目・評価指標	目標値	達成状況	評価と考察
アウトカム指標	①特定健診結果説明会参加率 ②フォロー率(保健指導実施率) (内訳) i 対面指導 ii 電話指導	①80% ②90% i 70% ii 20%	①69.8% ②98.4% i 71.7% ii 26.7%	結果説明会の参加率は目標達成できなかった。新型コロナウイルス感染症に対する不安の声が少なからずあり、こちらとしても今までと比べて参加を促す声掛けをすることができなくなっている。一方でフォロー率は目標を達成することができた。「仕事などがあり休んでまで参加したくない」という方にも、なるべく指導を実施することができるように、昼休みの時間帯や夕方など、電話に出やすい時間を確認し、指導を実施したことが要因であると考え、電話による指導を望む声も増えており、社会情勢に応じた指導体制の変更が今後にも必要になる。
アウトプット指標	①特定健診結果説明会(集団支援日)の1回あたりの参加者数 ②欠席予定者に対する再勧奨 ※電話による説明会参加勧奨 ③説明会欠席者に対する電話実施率	①説明会1回あたりの参加者が40人～70人となるように実施回数を確保 ②100% ③100%	①1回あたり 65.7人 ②100% ③100%	集団支援と個別支援でそれぞれ日時を設けているが、参加できない者には別日を案内し、なるべく対面で指導ができるような体制作りを意識して行った。欠席者には電話・訪問等で対応しており、保健指導率の高さに繋がっている。今後も高い保健指導率を維持するために、同様の方法で継続して実施していく。
事業課題	特になし(コロナウイルス感染症の状況に応じて、指導体制を柔軟に変更していく。)			

事業番号	事業名
④	特定保健指導事業

事業説明			
事業目的(目標)	専門職の支援を受けながら、自分に合った生活習慣改善のプランを立て実践することができる人を増やすことで、特定保健指導対象者の出現率を減少させる。		
対象者	40～74歳の国民健康保険加入者のうち、人間ドックを含む特定健診を受診し、特定保健指導の対象となった者	実施期間	通年(4～3月)
事業概要	厚生労働省が定める「標準的な健診・保健指導プログラム」に基づき、特定健康診査の結果により保健師または管理栄養士が面接を行い、生活習慣を改善するための行動計画を決定し、自主的かつ継続的な取組が行えるよう、グループ支援や個別支援を実施する。		
過去の経緯 (評価指標の推移や課題等)	<p>＜評価指標の推移＞ 令和2年度まで特定保健指導対象者出現率をアウトカム指標としていたが、指導実施者が次年度に特定保健指導対象者とならないことを目的とした指標に変更した。なお、令和2年度に特定保健指導実施率が目標である60%台に到達した。</p> <p>＜課題＞ 人間ドックや施設健診利用者に対する特定保健指導の実施率が低い点が課題である。受診時や受診後の結果説明会で関係性を持つ集団健診とは異なり、人間ドックや施設健診は受診時や受診後に対面でアプローチできる機会がないため、中々指導に繋がりにくい。指導を実施するための関係性をどのように構築していくかが課題である。</p>		
今年度の取組状況	<p>①集団健診参加者</p> <p>i) 健診時に初回面接ができた場合 ※健診時は初回面接を分割して実施</p> <p>①結果説明会時に初回面接(2回目) ※欠席した場合は来庁や電話等により実施</p> <p>②3～6ヶ月後に来庁や訪問、電話により評価を実施</p> <p>ii) 健診時に初回面接ができなかった場合</p> <p>①結果説明会時に初回面接 ※欠席の場合、訪問や来所で初回面接を実施</p> <p>②3～6ヶ月後に来庁や訪問、電話により評価を実施</p> <p>②人間ドック受診者(契約委託機関で実施する場合)</p> <p>①委託機関にて初回～評価まで実施</p> <p>③人間ドック受診者と施設健診受診者(胎内市が自前で実施する場合)</p> <p>①対象者に通知を発送</p> <p>②希望者に対して初回～評価まで実施</p> <p>積極的支援対象者</p> <p>①集団健診受診者</p> <p>i) 健診時に初回面接ができた場合</p> <p>①集団健診受診時に初回面接を実施</p> <p>②健診結果が分かり次第、電話にて初回面接(2回目)</p> <p>③結果説明会時に中間評価</p> <p>④3～6か月の継続支援および評価を実施</p> <p>ii) 健診時に初回面接ができなかった場合(結果説明会には参加)</p> <p>①結果説明会にて初回面接を実施</p> <p>②来所や訪問により中間評価を実施</p> <p>③3～6か月の継続支援および評価を実施</p> <p>iii) 健診時に初回面接ができなかった場合(結果説明会にも不参加)</p> <p>①訪問や来所、電話、集団支援を行い、初回～評価まで実施</p> <p>②人間ドック受診者と施設健診受診者(胎内市が自前で実施する場合)</p> <p>①対象者に通知を発送</p> <p>②希望者に対して電話や訪問、来所、集団支援の方法により初回～評価まで実施</p>		

事業評価(評価指標の推移と評価)				
	評価項目・評価指標	目標値	達成状況	評価と考察
アウトカム指標	①指導実施者の次年度特定保健指導出現率 ②指導実施者の生活習慣改善率	①次年度出現率80% ※5人に1人の数値を改善する。 ②75%	①② 令和4年12月に評価	①② 令和4年12月に評価
アウトプット指標	①特定保健指導実施率(詳細) i 集団健診受診者 ii 人間ドック、施設健診、その他 ②初回面接実施率 i 集団健診受診者 ii 人間ドック、施設健診、その他 ③集団支援実施回数	①(全体)56% (詳細) i 85% ii 20% ② i 85% ii 25% ③ 1回 ※複数回実施したいが、コロナ禍であり、実施できない可能性もある。	①～③ 令和4年12月に評価	①～③ 令和4年12月に評価
事業課題	特定保健指導実施率を60%に到達させるために、人間ドック受診者の指導率を向上させる。→保健師によるアプローチだけでなく、ほけん年金係からできることを考えていく。			

事業番号	事業名
⑤	早期介入事業

事業説明			
事業目的(目標)	特定健診の対象年齢になる前に、健診を受診する習慣をつけていただく。 生活環境の改善など適切な指導をすることで発症や重症化を防ぐとともに、早期治療が必要な人には受診勧奨を実施する。		
対象者	30～39歳の国民健康保険被保険者のうち市の集団健診希望者 35才以上の被保険者のうち人間ドック費用助成希望者	実施期間	通年（4～3月）
事業概要	(集団健診)……受診勧奨の実施、(基準値を超えた人に対し)保健指導や受診勧奨の実施 (人間ドック)……受診勧奨の実施、新規35歳の被保険者に対し個別に受診勧奨を実施		
過去の経緯 (評価指標の推移や課題等)	<p>◀評価指標の推移▶ 健診受診後に実施する保健指導や医療機関受診勧奨は目標値以上に実施することができているが、健診受診率が目標未達である。</p> <p>◀課題①▶ 健診受診率が低い。市報などを通じて周知をしているが、なかなか受診率が上がらない。市以外が実施する健診に参加していることや妊産婦であることを理由に健診を受けない者が一定数いることは把握しているが、それ以外の者に対するアプローチが今後の課題である。</p> <p>◀課題②▶ 医療機関受診率が上がらない。対象者の多くが自覚症状の出にくい血中脂質を原因としている。放置することで重症化に繋がる恐れがあるため、医療機関受診や生活習慣の見直しをしてもらう必要がある。</p>		
今年度の取組状況	<p>◀方法▶</p> <p>①集団健診 利用希望者には通知等を送付し、5か所で複数回実施する健診のいずれかに参加していただいた。</p> <p>①利用希望者の把握 利用希望者の把握（調査）は前年度の12月に実施済（令和3年度の12月には令和4年度の希望を取った）</p> <p>②集団健診の準備～実施 i 健診実施日を市報に掲載し、実施日の周知を行った ii 各健診実施月に合わせて、利用希望者に通知（問診票等）を送付した。 iii 集団健診を実施</p> <p>③健診結果に対する保健指導または受診勧奨の実施した。</p> <p>②人間ドック(受診勧奨)【実施者：事務職員(市民生活課 ほけん年金係)】 ①人間ドック契約機関や対象者に関する情報を市報に掲載した。 ②新しく35歳になる国保被保険者に対し、人間ドック費用助成の案内を送付した（一部対象者は3月に実施予定）。</p>		

事業評価（評価指標の推移と評価）				
	評価項目・評価指標	目標値	達成状況	評価と考察
アウトカム指標	①30代の健診受診率 (内訳) i 集団健診 人 ii 人間ドック 人 ②医療機関受診率 ※集団健診受診者のみ	①33% ②25%	①令和4年4月に評価 i 34人 ii 5人(R4.2月末時点) ②次年度評価	次年度評価
アウトプット指標	①集団健診の実施回数 ②人間ドック費用助成のご案内発送率 (新規35歳に対する費用助成の案内) ③保健指導実施率 i 集団健診受診者に対して ii 受診勧奨判定者に対して	①必要回数の実施 ②100% ③ i 90% ii 80%	①28回 ②次年度評価 10月に4～9月に新規35歳になった者24人に対し、案内を発送した。3月末に10～3月の対象者に送付予定 ③ i 91.2% ii 90.9%	①特に目立った混雑等はなく、必要回数は確保できていると判断した。 ②全対象者に配布する予定である。費用助成の案内事業も3年目になるが、前年度送付した対象者の中で、今年度人間ドックを受診した者は2名である。集団健診を受診している可能性もあるが、利用者数を増やすために再勧奨などの取組を検討していく。 ③集団支援と個別支援でそれぞれ日時を設けているが、参加できない者には別日を案内し、なるべく対面で指導ができるような体制作りを意識して行った。欠席者には電話・訪問等に対応しており、保健指導率の高さに繋がっている。今後も高い保健指導率を維持するために、同様の方法で継続して実施していく。
事業課題	健診受診率の増加（未受診者の傾向整理、受診勧奨方法の検討など）			

事業番号	事業名
⑥-i	生活習慣病予防のための重症化予防事業（医療機関受診勧奨事業）

事業説明			
事業目的(目標)	自己の健診結果を理解し、重症化する前に医療機関へ受診する者を増やす。		
対象者	血圧→収縮期血圧140以上、拡張期血圧90以上 血糖→空腹時血糖110mg/dl以上もしくは随時血糖140mg/dl以上、またはHbA1c6.0以上の者 特定保健指導該当者で空腹時血糖100～109/dl、またはHbA1c5.6～5.9の者 HbA1c→7.0以上の者 CKD →尿蛋白(+)かつ45≤eGFRの者 尿蛋白(-)(±)(+)かつeGFR<45、尿蛋白(2+)以上の者、尿蛋白(+)かつ尿潜血(+)以上の者	実施期間	通年(4～3月)
事業概要	それぞれ(血圧、血糖、HbA1c、CKD)の対象者に医療機関受診勧奨を実施する。 →HbA1c7.0%以上で、勧奨後、医療機関での受診が確認できない場合は、再度受診勧奨を行う。		
過去の経緯 (評価指標の推移や課題等)	<<経緯(評価指標の変更)>> (変更前) 『生活習慣病予防のための重症化予防事業』では、医療機関受診勧奨事業と(重症化予防指導対象者に行う)保健指導事業を1つの事業として掲載 (変更後) R3～ 医療機関受診勧奨事業では、重症化予防指導事業の対象になる者とならない者が混在しているため、分けて掲載することにした。 <<課題①>> 医療機関受診勧奨事業対象者かつ重症化予防事業対象者の医療機関受診率が70%台で留まっている。 →毎年度、同じ対象者が医療機関を受診せず終わるため、対策を考えていく必要がある。 <<課題②>> 人間ドックの受診者に対し、受診勧奨事業を行う。 →現状では、集団健診受診者のみを対象としているが、人間ドックの受診者は毎年900人を超えるため、事業を実施する必要があると考える。		
今年度の取組状況	集団健診受診者 ①事業担当者と従事者で打ち合わせを行い、対象者に対する配布物や説明事項の確認した。 ②集団特定健診(5～11月)の健診結果に基づき対象者を抽出し、医療機関用の書類を準備した。 ③集団特定健診結果説明会(6～12月)参加者 ④説明会にて受診勧奨を実施した。 ⑤HbA1cが7.0%以上の対象者は、勧奨から6か月後に受診結果の戻りや、レセプト状況を確認し、未受診者に対しては再度声掛けを実施した。 ⑥集団特定健診結果説明会欠席者 ⑦訪問・来所・電話の方法により受診勧奨を実施した。 ⑧HbA1cが7.0%以上の対象者は、勧奨から6か月後にレセプト状況を確認し、未受診者に対しては再度声掛けを実施した。 [新たな取組] 人間ドック受診者 ①事業対象者の抽出(11月(4～9月の受診者)、令和4年5月(10～3月の受診者)) →レセプトから治療状況や服薬状況の確認も行い、対象者を抽出した。 ②対象者に文書による案内の送付 ※今年度の指標設定はアウトプット指標までとする。実施状況に応じて、令和4年度以降の指標設定を考える。		

事業評価(評価指標の推移と評価)				
	評価項目・評価指標	目標値	達成状況	評価と考察
アウトカム指標	①要受診判定者の医療機関受診率 (項目毎に計測) i 血圧 ii 血糖 iii HbA1c(7.0%) iv CKD ②要受診判定者かつ重症化予防対象者の医療機関受診率	① i) 52.5% ii) 59.5% iii) 72.5% iv) 88.5% ②80%	① i) 47.5% ii) 50.6% iii) 72.7% iv) 72.9% ※数値は1月現在の数値 ②次年度に評価	①目標値に到達していない部分もあるが、11月・12月に実施した結果説明会の医療機関受診勧奨実施者の結果が戻ってきているため、今後受診率が上がる予定である。 初めて対象となり医療機関で受診した人もいれば、定期的に医療機関を受診しているにも関わらず検査値の高い人もいる。生活習慣の改善を促すとともに、医師からの指示等を確認していく必要がある。 ②次年度に評価
アウトプット指標	受診勧奨実施率 i 集団健診受診者 (実施方法) ・結果説明会時の勧奨 ・訪問 ・来所 ・電話 ii 人間ドック受診者 (実施方法) ・訪問 ・来所 ・電話	i 100% ii 100% [条件] HbA1c7.5 以上 医療機関未受診	①100% (782人に実施) 結果説明会549人 訪問10人 来所7人 電話204人 文書12人 ②100% (1人に実施) ※1月末時点	①医療機関受診勧奨対象者には、医療機関受診用の用紙を発行している。結果説明会時や電話により受診勧奨を行い、併せて用紙を渡した者は9割となった。連絡がどうしても取れない者には用紙にメッセージを付けて受診勧奨を実施した。最終的な医療機関受診率を出した際に、対応方法ごとの受診率を集計し、比較を行う。 ②令和3年4月～9月に人間ドックを受診した者で対象になる者は1人のみであった。対象者には文書により通知を発送した。また、HbA1cの値が8.0以上の者が2人いたため、受診している医療機関名と処方薬の状況を保健師に伝え、保健指導を実施していただいた。次回以降も継続して依頼を出す予定であるため、令和4年度計画時には①～②生活習慣病予防のための重症化予防事業にて掲載すること。
事業課題	HbA1cの値のみで抽出すると、対象者数は多くないため、他の値の状況からアプローチを実施していくか考える。			

事業番号	事業名
⑥ - ii	生活習慣病予防のための重症化予防事業（保健指導事業）

事業説明			
事業目的(目標)	自己の健診結果の原因となっている生活習慣について、振り返りや改善に努めることができる者を増やす。		
対象者	対象基準（年齢30～69歳） ①収縮期血圧180mmHg以上または拡張期血圧100mmHg以上(内服中は除く) ②HbA1c8.0%以上(内服中も含む) ③中性脂肪500mg/dlまたは、LDLコレステロール200mg/dl(内服中は除く) ④CKD判定受診勧奨判定者 尿蛋白(-)(+)かつ45≤eGFR<50、尿蛋白(+)かつ45≤eGFRの者 尿蛋白(-)(±)(+)かつeGFR<45、尿蛋白(2+)以上の者、尿蛋白(+)かつ尿潜血(+)以上の者 ⑤医療機関から依頼のあった者	実施期間	通年（4～3月）
事業概要	事業対象者に保健指導(結果説明会の活用、訪問、来所、電話等)を実施する。 →半年後を目安に訪問、来所、電話等により経過を確認し、必要に応じて再度保健指導を実施する。		
過去の経緯 (評価指標の推移や課題等)	<p>《経緯（評価指標の変更）》 (変更前) 『生活習慣病予防のための重症化予防事業』では、医療機関受診勧奨事業と(重症化予防指導対象者に行う)保健指導事業を1つの事業として掲載 (変更後) R3～ 医療機関受診勧奨事業では、重症化予防指導事業の対象になる者とならない者が混在しているため、分けて掲載することにした。</p> <p>《課題①》 次年度生活習慣改善率が未達であること（保健指導率は90%を超えているので、指導内容を工夫することで達成を目指す）</p> <p>《課題②》 人間ドックの受診者に対して、どのように実施していくか検討すること</p>		
今年度の取組状況	<p>集団健診受診者 ①事業担当者と従事者で打ち合わせを行い、対象者に対する指導内容の確認をした。 ②集団特定健診（5～12月）の健診結果に基づき対象者を抽出した。</p> <p>①集団特定健診結果説明会（6～12月）参加者 ③説明会にて保健指導を実施 ④半年後に生活状況の確認と必要に応じた保健指導を、訪問・来所・電話の方法により実施</p> <p>②集団特定健診結果説明会欠席者 ③訪問・来所・電話の方法により保健指導を実施 ④半年後に生活状況の確認と必要に応じた保健指導を、訪問・来所・電話の方法により実施</p> <p>[新たな取組] 人間ドック受診者 ①事業対象者の抽出（11月(4～9月の受診者)、令和4年5月(10～3月の受診者)） →HbA1c8.0以上の者に保健指導を実施</p> <p>※今年度は受診勧奨事業のみを実施予定としていたため、計画時に評価指標等を作成していなかった。</p>		

事業評価（評価指標の推移と評価）				
	評価項目・評価指標	目標値	達成状況	評価と考察
アウトカム指標	①[保健指導実施者] 生活習慣改善率 ②[保健指導実施者] 次年度健診結果改善率	①75% ②75%	①次年度評価 ②次年度評価 ②について 令和2年度に事業対象者で、令和3年度の健診も受診した者により集計	①②ともに次年度に評価
アウトプット指標	①保健指導実施率 (実施方法) ・結果説明会時の面談 ・訪問・来所・電話 ※評価は合算で行うが、数値として項目毎(血圧、HbA1c)の対象者数と実施者数を把握しておくこと	①90%	①初回指導実施率94.1% [32/34] 説明会：26人 [76.5%] 電話：6人 [17.6%] 残りの2人は文書により指導 ※2回目の指導は今後実施予定	初回の指導は特定健診結果説明会時に行うことができるため、目標値に到達している。しかし、連絡が取れない人もいるため、今後のレセプト状況を見ながら必要な支援を実施していく。また、2回目の指導もレセプト状況を見ながら実施していく。 今年度の支援・評価委員会において、計画の対象者①②④については、医療機関に繋げることを優先し、③については保健指導を重点的に実施するという考え方もあるという助言をいただいた。人員数は限られているので、令和4年度の体制等も踏まえて、必要に応じて、対象者の抽出方法を見直す。
事業課題	人間ドック受診者に対する保健指導の対象者基準、評価指標について考えること			

事業番号	事業名
⑦	成人歯科健診

事業説明

事業目的(目標)	歯周病と糖尿病などの生活習慣病との関連を理解し、健康の保持・増進のために成人歯科健診を受診する市民を増やす。		
対象者	40、50、60、70、76、80歳の市民	実施期間	7月～3月
事業概要	市と委託契約した医療機関14か所にて問診、歯科健診、歯科保健指導を実施する。 対象者は市で発行した受診票を持参して、診療機関にて受診してもらう。		
過去の経緯 (評価指標の推移や課題等)	<p>《過去の経緯》</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度から高齢者の口腔予防を目的として、対象者に76歳と80歳を加えた。 令和2年度からコロナウイルスの影響を考慮し、実施期間を3月まで延長した。 <p>《課題》</p> <p>歯科健診未受診者で歯科通院歴のない者を特定することが課題となる。歯科健診未受診者の中には、すでに治療中であるため歯科健診を受診しない者がいる。その者を把握することで、受診勧奨に活用していく。</p>		
今年度の取組状況	<p>①対象者の把握</p> <p>住基情報から健康増進事業の対象である40・50・60・70歳になる市民を把握 住基情報と後期高齢データから76歳・80歳になる市民を把握</p> <p>②受診票の発送</p> <p>受診票と併せて『歯周病と生活習慣病予防に関する啓発チラシ』を同封し、受診勧奨を実施</p> <p>③健診実施（健診実施期間は7～3月を予定）</p> <p>市内医療機関から実施結果と委託料の請求書をお願い受診者を把握する。[※実施結果と請求は健診実施月の翌月に届く] 「歯科治療中のため受診しない」と連絡をしていただいた人を整理</p> <p>④受診勧奨</p> <p>集団健診や特定健診結果説明会の参加者に対し、『成人期の口腔ケアに関するチラシ』を配布 また、12月の市報を活用し、受診率の低い40歳・50歳・60歳・70歳の年代には再勧奨を実施</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、集団健診会場で実施していた『お口の健康チェック(受診勧奨)』は中止した。</p> <p>⑤周知</p> <p>市内の医療機関や公共施設に成人歯科健診に関するポスターの掲示依頼をする（6月）</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、『中小企業健康管理事業での成人歯科健診及び口腔ケアについての周知』は中止した。</p> <p>⑥実態調査</p> <p>高校卒業後～39歳、40～60代を対象に行い、受診率を向上させる方法を検討する。（令和3年度末までに実施予定）</p>		

事業評価（評価指標の推移と評価）

	評価項目・評価指標	目標値	達成状況	評価と考察
アウトカム指標	①歯科健診受診率 (各年代毎の受診率) 40、50、60、70、76、80歳	①15.0%	①15.5%（※R4.2末時点） [補足]世代別受診率 40歳12.9%、50歳15.3% 60歳14.4%、70歳16.3% 76歳18.8%、80歳15.2%	詳細な評価は令和4年度に実施 目標値に到達しているが、受診率は伸び悩んでいる。新型コロナウイルス感染症による受診控えが理由の1つであると推測する。達成状況は令和4年2月末時点のものであり、令和4年1月に受診再勧奨を実施していることから、3月末時点では受診率がもう少し高くなると推測している。
アウトプット指標	①受診勧奨実施率 ②実施期間	①100% ②5～3月	①100% 対象者全員に受診券と同時に受診勧奨チラシを同封した。 ②当初計画通りに実施	①抽出した対象者全員に対し、受診勧奨を実施することができた。受診券を発送するだけでなく、受診勧奨通知と『成人期の口腔ケアに関するチラシ』を同封した。 ②新型コロナウイルス感染症の影響を受け、受診期間を3月まで延長した(令和元年度以前は1月まで)。対応できる期間を長くしたことは利点であると考え。
事業課題	引き続き周知の方法や発送時期について、より良いものになるよう検討をする。			

事業番号	事業名
⑧	運動習慣定着促進事業

事業説明			
事業目的(目標)	歯周病と糖尿病などの生活習慣病との関連を理解し、健康の保持・増進のために成人歯科健診を受診する市民を増やす。		
対象者	40歳以上の国保加入者かつ特定健診(人間ドックを含む)を受診した者	実施期間	7月～3月
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診を受診した参加希望者に対し、市の運動施設『ぶれすば胎内』を活用した運動支援事業を実施する。支援内容としては、『正しい歩き方』や『運動方法全般に関する相談』などであり、ぶれすば胎内の職員に実施してもらう。 ・特定保健指導の対象者をメインに理学療法士を講師とした運動講座を行う。 		
過去の経緯 (評価指標の推移や課題等)	<p>◀過去の経緯▶ 令和2年度まで『運動教室への支援』という事業名で実施していたが、市から正しい運動方法を実践するための機会を提供するために本事業を計画した。 ※運動教室の支援では各団体が開催する教室に保健師が向向き、支援を行っていた。</p>		
今年度の取組状況	<p>①運動習慣定着促進事業</p> <p>①集団健診受診者</p> <p>(1)以下の事業実施時に事業説明と参加者の呼びかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診結果説明会 ・特定保健指導 ・重症化予防指導事業 <p>(2)参加希望者に保健指導の実施とスタンプカードの配布</p> <p>(3)次年度の健診時に取組の継続状況を評価</p> <p>②人間ドック(施設健診)受診者</p> <p>(1)費用助成申請時(施設健診においては、受診券発行申請時)にチラシを配り事業説明</p> <p>(2)参加希望者は人間ドック(施設健診)受診後に健診結果を持参し、保健師による保健指導を受ける。</p> <p>(3)3回実施者に対する取組の継続状況等を電話等で評価</p> <p>②運動講座の開催</p> <p>運動講座＝糖尿病予防講座内の運動支援(ほけん年金係用 ME)</p> <p>①担当者間で打ち合わせ</p> <p>②対象者の抽出、名簿の作成</p> <p>特定保健指導や重症化予防指導対象者を中心に呼びかけを行う。</p> <p>③案内文書作成と送付</p>		

事業評価(評価指標の推移と評価)				
	評価項目・評価指標	目標値	達成状況	評価と考察
アウトカム指標	特定健診質問票で「運動習慣がある」と回答した人の割合	50%	次年度評価	<p>達成状況に対する事業評価は次年度に実施する。</p> <p>[要検討]</p> <p>指標は次年度の健診受診時に「運動習慣なし」から「運動習慣あり」に変わった人の割合にした方が良いか？事業に参加した人の中で見るという方法も考えられる。</p>
アウトプット指標	<p>□運動習慣定着促進事業</p> <p>①事業説明の実施</p> <p>i 集団健診</p> <p>ii 人間ドック、施設健診</p> <p>②事業参加率 (参加者/特定健診受診者)</p> <p>□運動講座</p> <p>③運動講座の実施回数</p> <p>③運動講座の参加者数</p>	<p>① i 100% ii 100%</p> <p>② 5.0%</p> <p>③ 2回</p> <p>④ 50人</p>	<p>① i 100%</p> <p>ii 100% (見込)</p> <p>②次年度評価 (R4.2末時点の参加人数) 30人</p> <p>③2回(2回目は3月に実施予定)</p> <p>④83人</p>	<p>① 事業説明を行い、参加者全員にスタンプカードを渡すことができた。また、特定保健指導の対象者や重症化予防指導の対象者には指導実施時に勧奨を行った。運動習慣を身に着けるきっかけとして周知したところ、反応は良かったように感じている。</p> <p>ii ほけん年金係の窓口では保健指導を実施することができないため、事業の案内チラシを作成し、人間ドック費用助成申請時や施設健診受診券発行時に窓口にて説明・配布した。8月から窓口配布を開始したため、7月以前の来庁者には郵送で案内文書を送付した。すぐに支援を受けることができない点に不満を感じているお客様もいたため、次年度の事業計画時に要検討する必要がある。</p> <p>②年度途中であるため増加の見込はあるが、目標達成には難しい状況である。人間ドック受診者が参加するまでのハードル(ほっとHOTで保健指導を受診すること)を緩和することが、参加者を増やすためのきっかけになると考えている。</p>
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトカム指標の見直し ・人間ドック受診者が参加するまでのハードルを緩和することについて検討 			

事業番号	事業名
⑨	生活習慣病予防の知識普及啓発事業

事業説明			
事業目的(目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙と生活習慣病の関係性を理解していただき、喫煙本数を減少する者や禁煙をする者を増やす。 ・食習慣と生活習慣病の関係について、正しい知識を深める人を増やす。 		
対象者	個別禁煙指導事業→集団健診受診者のうち、禁煙している者 栄養指導事業→集団健診受診者全員 生活習慣病予防講座→全市民	実施期間	4月～3月
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・集団健診受診者のうち、喫煙者に対して保健指導を実施する（短時間支援の実施）。 ・集団健診受診者に対して、面談や電話、文書の方法により栄養指導を実施する。 ・特定保健指導者や重症化予防事業対象者向けに、生活習慣病予防講座を実施する。 		
過去の経緯 (評価指標の推移や課題等)	«過去の経緯①» 令和2年度までは禁煙者の割合をアウトカム指標としていたが、市報での周知(禁煙の呼びかけ)がメインであったため、令和3年度からは個別禁煙指導を実施することにした。実施に伴い、指標を一部変更した。なお、男性の肺がん治療者数が増加傾向にある。 «過去の経緯②» これまでも集団健診参加者には栄養指導を実施していたが、計画上に記載をしていなかった。短期目標にある食生活改善者の増加のため、令和3年度から栄養指導に関する事業目標を作成する。		
今年度の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別禁煙指導（令和3年度からの新たな取組） <ul style="list-style-type: none"> ① 集団健診時に面談を実施 → 喫煙の有無により途中で面談を入れた。 ② 次年度の健診時に行動変容等を確認 ● 栄養指導 <ul style="list-style-type: none"> ① 特定健診結果説明会参加者 → 面談により栄養指導を実施 ② 特定健診結果説明会欠席者 → 電話または文書により栄養指導を実施 (共通) 塩分摂取量アンケートの配布 & 回収を実施 ● 生活習慣病予防講座 <ul style="list-style-type: none"> ① 講演会のテーマを選定した。 ② 講演会実施の周知した。 ③ 講座を実施した。 		

事業評価（評価指標の推移と評価）				
	評価項目・評価指標	目標値	達成状況	評価と考察
アウトカム指標	① 喫煙本数が減少した人の割合 (減少者数/実施者数) ② 栄養指導実施率 i 面談 ii 電話 iii 文書 ③ 生活習慣病予防講座の参加者数 ④ 塩分適量摂取者の割合	① 10% ② 90%維持 ※達成状況では i～iii ごとに記載 ③ 50人以上 ④ 21%以上	① 令和4年度に評価 ② 98.4 (内訳) i : 71.8% ii : 26.7% iii : 1.6% ③ 83人 ④ 25.8%	① 令和4年度に評価 ② ほとんどの受診者に直接栄養指導を実施することができた。生活習慣で気をつけている人の多くは、塩分を控えていると答える人が多いが、男性は濃い味付けを好む人や飲酒時にしょっぱいつまみをとる人も多く、約半数が「とりすぎ」「かなり取りすぎ」となっている。減塩のためには、飲酒に関する指導も大切になると考えている。 ③ 対象者を70代にも広げたと、参加者が多く集まった。参加者の興味のあるテーマや内容について考え、周知したことが結果に繋がったと考えている。 ④ 前年度より適量摂取者は増えたが、前年度より人数は増えたが、アンケート回収者数も増えたため、適量摂取率は下がった。男性は「若い」、「男性」というだけでも点数が高くなるため、その他の項目や合計点を確認することで、傾向を見ていく必要がある。
アウトプット指標	① 個別禁煙指導実施率 (実施者数/喫煙者数) ② 栄養指導実施回数 ③ 生活習慣病予防講座の実施回数 ④ 塩分摂取量アンケート回収率	① 50% ② 必要回数の確保 ③ 2回以上 ④ 90%	① 62.4% (116/186人) ② 必要数を確保することができた ③ 2回 (2回目は3月に実施予定) ④ 96.9%	① 対象者をリストアップしておき、結果説明会では対象者を把握しやすくなったことで、従事者の見落としも少なくなり、結果説明会来所者にはほぼ実施することができた。 ② 集団での栄養指導は実施しなかったが、個別指導では栄養面にも触れ、個々に合った栄養指導が実施できた。また、嗜好品やインスタント食品等の展示をし、糖分や塩分がどれ位含まれているかをわかりやすく伝えたことで、問題意識が高まった人も一定数見て取れた。 ③ 事業の計画の際、2回分の日程を決め、講師等の調整をしたことで、計画的に2回実施できる見込みである。1回目の実施時期はもう少し早めてもよかったと思われるため、次年度に向けて調整していく。 ④ 健診会場でアンケートを持参していない人には直接声をかけ、記入を促したことで高い回収率となった。
事業課題	特になし（個別禁煙指導のアウトカム指標結果次第では、指導内容等について考えていく必要がある。）			

3 講評

個別保健事業評価に対する講評

(1) 国保運営協議会

- ・ 新しく開始した運動習慣定着促進事業について、人間ドック受診者に対する周知が行き届いていないように感じる。

(2) 新潟県

① 全体について

事業計画、実施内容、評価について一貫性があり、非常にわかりやすく表現されていると思う。

② 特定健康診査事業について

今の事業目的では、「主体（胎内市）は何を目的としているのか？」が明確でない。

特定健診の受診率を上げることが目的なのであれば、もう少しそのあたりを分かりやすくした方がよい。

③ 特定健康診査結果説明会事業について

今の事業目的では、「保健指導を実施すること」が目的と読み取れてしまう。

「生活習慣の改善プランを立て、実践することができる人を増やすこと」が目的ではないのか？

(3) 新潟県国保連合会

① 全体について

- ・ 事業目的がぼやけている印象を受けます。整理することで、事業の組み立てが分かりやすくなると思う。
- ・ 事業目的は、事業対象者がどうなってほしいかという視点で設定されるとよいと思う。

② 特定保健指導事業について

アウトカム指標について、非該当率（改善した人）を増やすの方が良いのではないかと？

「保健師による指導が上手かった」というようなポジティブな評価の方が良いと思う。

③ 早期介入事業について

- ・ 健診を継続して受診していただくことが目的であれば、アウトカム指標には継続受診率が必要ではないかと？

- ・ 保健指導を実施しているのであれば、「生活習慣の改善」や「健診結果数値の改善」を見る必要はないかと？

④ 運動習慣定着促進事業

書面上だけでは事業内容が分かりにくい印象を受けた。

指標を整理し、「より介入したい層に介入できているのか」が分かるようになると良いと思う。

⑤ 生活習慣病予防の知識普及啓発事業

目的も対象者もそれぞれ違うので、分けて掲載した方が良いと思う。

今後の対応

令和4年度以降の事業計画時には、上記講評を参考にしつつ、事業計画書を作成する。

**胎内市国民健康保険
第2期保健事業実施計画
(データヘルス計画)
個別保健事業評価**

発行 令和4年 3月
住所 〒959-2693
新潟県胎内市新和町2番10号
TEL 0254-43-6111
編集 胎内市 (市民生活課・健康づくり課)